

1、先端について

リードは先端がもっともデリケートです。

先端仕上げによって音色や響き・吹き心地・ピッチのバランスが大きく影響されま
す。

特に音の立ち上がり(アタック)は先端の即応性によって決まります。

音楽において大切な要素のひとつに“リズム”があります。

決められた拍に従って正確なリズムを刻むためには、即応性の優れたリードが必要
です。リードの反応が自分の意志どおりにならなければ、正確なリズムを刻むことは
非常に難しいでしょう。

即応性はタンギングに限らずスラーの場合でも重要です。速いテンポでパッセージ
が細くなる時、音どおしがムラなく鮮やかに連なるにはリードの即応性が大きく影響
します。

即応性の優れた先端に仕上げるためには、少しの圧力変化で反応し始めるような
加工が望まれます。

高音楽器になるほどリードの張力が高くなりますが、高い張力でも俊敏に反応する
ための先端仕上げはもっとも薄くて約60～90 μ m前後です。

身近な例でいえば、サランラップ1枚あたりの厚みが10 μ mなので、6～9枚分の厚
みということになります。

先端を最適に仕上げるためには、

- 1 ナイフの切れ味が優れていること＝先端加工に適していること
 - 2 先端仕上げ専用ブランクの状態が良好であること(oboeの場合)
 - 3 加工するときの力加減が均一・平行で過不足のないこと
- が重要です。この3つのどれが欠けても精密に仕上げることはできません。

5、素材の分析

素材にはいろいろな個性がありますが、それらの違いは各種測定器を使用することで可視化、計測が可能です。

計測のメリット

リードに対する一般的な表現として「厚い」「薄い」や「硬い」「やわらかい」など、日常感覚としてわかりやすい形容詞が用いられています

しかし、形容詞は主観的な表現なので、第 3 者には必ずしもあてはまるとは限らず、誤解を生む原因となります。

服や靴のサイズ表示のように、リードにも数値的な指標があれば、実際に吹く前にある程度の絞り込みが可能になります。

この表示を仮に“リード諸元”と名付け、素材の性質や採取年月、産地などに分類しておくことで似通った素材のものを区別しておくことが可能になります。

厚みや形状は個々の奏者にとって好みがあるので、諸元を把握したうえで好みの形状に仕上げれば、高い確率で好みの吹奏感へ近づけるために役立ちます。

厚みの計測:ダイヤルキャリパー

ダイヤルキャリパーは左右の厚みのバランスを 1/100 単位で計測することが可能です。理想的な絶対値を決めることはできませんが、左右均等のバランスが望ましいので、キャリパーの活用をお勧めします。

素材の計測:硬度計

硬度計を応用して素材の分類が可能です。一般的な硬度計測ではなく、繊維密度(結合力)として分類することで素材分類します。

リードは開閉運動によってピッチが、波打ち運動によって音色と吹き心地が決まります。波打ち運動は密度(結合力)に影響されるので、素材分類が音色や吹き心地の分類として役立ちます。

素材の観察

肉眼では見えない状態を観察することで、リードの状態をより詳細に把握することが可能です。

透過観察

完成形リードを光に透かせば繊維の内部状態を疑似的に観察できます。表面には出てこない繊維内部の“割れ”や粗密、トリミングの仕上がりを確認できます。

透過観察のコツは周囲を暗く、リードを明るくすることです。白色光が透過観察に適しています。

拡大観察

微細な部分を拡大することで、先端の形状や繊維の状態を詳細に観察できます。

PCを持っている場合は USB タイプのマイクロスコープが手軽です。

また拡大鏡などで立面も観察すれば素材のひずみを把握することができます。

SR の場合、裏面チェックに便利です。

振動様態観察

特殊な撮影環境で観察可能です。カテゴリー別に様態の異なりを観察することで、音色や反応と様態との関係性を把握できます。

ハイスピードカメラによる動画観察でカテゴリー別の様態を観察できます。